

1. 計画理念

「暮らし」・「活力」・「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現 ～あるべき将来都市像を実現する持続可能な都市交通を目指して～

<将来都市像の実現を交通面から支える重要な視点>

暮らし	日常生活を支える各拠点において、それぞれの特性に応じた多様な都市機能の集積を図るとともに、北国の文化を継承しながら、多様なライフスタイルを選択し、お年寄りから子供まで、誰もが安全・安心に暮らすことができる、公共交通を軸とした利便性の高い交通体系を実現します。
活力	都心部には、道内・国内外と交流・連携する多様で高度な機能の集積を誘導する必要があり、道内市町村との連携強化を図りながら、北海道経済を牽引し、その機能を持続・発展させる市民活動・経済活動を支援する交通システムの実現を図ります。 また、国内外との交流・連携を支える広域的なネットワークを強化することにより、都市の魅力と活力を創造し、道内・国内外とつながる交通体系を実現します。
環境	地球温暖化などの環境負荷を低減させ、豊かな自然環境と持続的に共生し、公共交通の利用促進等による適切な自動車利用を誘導し、適切な交通手段が選択できる低炭素型の交通体系を実現します。

<目指す都市交通の方向性>

持続可能な交通ネットワークの確立	公共交通の利便性向上や骨格道路網の強化等により、地域生活、拠点間交流、広域連携を支える公共交通を軸とした持続可能な交通ネットワークを確立
地域特性に応じた交通体系の構築	人口減少や高齢化などの社会情勢を踏まえ、市街地の特性や交通状況など、地域の状況に応じた交通体系の構築
市民・企業、交通事業者、行政の連携	持続可能な交通ネットワークの確立や地域特性に応じた交通体系の構築を図るため、市民・企業、交通事業者、行政がそれぞれの役割を認識し、連携して取組を推進

2. 基本方針

区分	現計画	見直し(案)	
暮らし	地域特性に応じた『拠点のまちづくり』を支える	さっぽろの『安全・安心なまちづくり』を支える	一年を通じて安定した生活・社会経済活動を送ることができる信頼性の高い都市の構築を目指し、交通基盤の適切な維持・保全や更なるバリアフリー化、効果的な交通情報の提供等により、災害にも強く、誰もが安全・安心な交通環境の形成を図ります
		市民の『多様な暮らし』を支える	利便性の高い都心・地下鉄駅周辺などでの暮らしや、自然と調和したゆとりある郊外での暮らしなど、住まいの多様性が確保された札幌らしいライフスタイルを実現するため、地域の状況に応じた持続可能な交通環境の形成を図ります
活力	道都さっぽろの顔となる『都心まちづくり』を支える		都心部においては、通過するだけの不必要な自動車流入を抑制し、人を中心とした安全で快適な交通環境を創出するとともに、国内外から活力・投資を呼び込み、北海道・札幌の経済を牽引し、高次な都市機能を持続・発展させる市民活動・経済活動を支援するため、誰もが都心にアクセスできる利便性の高い交通環境の形成を図ります
	さっぽろの『都市観光』を支える	さっぽろの『観光まちづくり』を支える	国内外から多くの観光客が訪れる札幌市においては、観光客の滞在・周遊・再訪を促進し、道央都市圏をはじめとした道内の交流人口の拡大を図っていくため、市民・企業、交通事業者、行政が一体となって、多様な旅行スタイルやニーズに対応した利便性の高い交通サービスの提供を図ります
	圏域連携のための『広域交通』を強化する	道内・国内外との『広域連携』を支える	北海道新幹線札幌開業を見据え、その効果を道内各地に波及させるとともに、道央都市圏をはじめとした広域的な拠点間の連携強化を図り、都市の活力を向上させるため、空港・港湾や鉄道・高速道路など、札幌市と道内・国内外とを結ぶ広域交通機能の確保・充実を図ります
環境	交通システムの充実により『環境首都・札幌』の実現を支える		環境首都・札幌の実現を目指し、市民・企業、交通事業者、行政が一体となって、公共交通の利用促進や自動車利用の適正化を図るとともに、各交通モードの円滑性や連続性を向上させるなど、持続可能な低炭素型の交通システムの充実を図ります